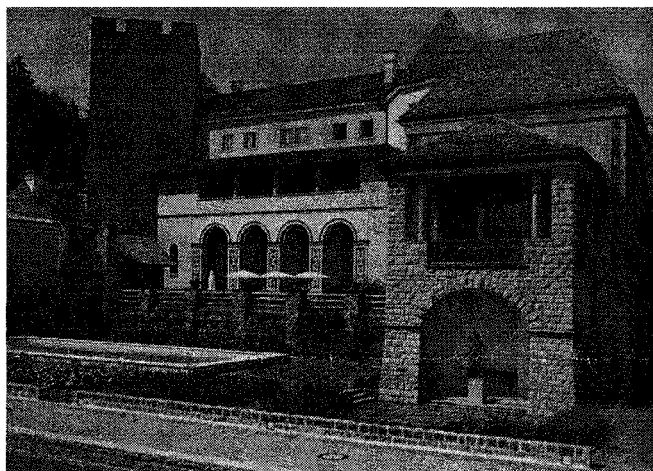


日本天文学会 早川幸男基金による  
渡航報告書

*International Conference on the Star Formation 2000 : "From Protostellar Cores to Stars and Planets Systems" June 21-24 Rindberg Castle, Tegernsee, Germany*

ドイツ・ミュンヘン近郊の Tegernsee で開催されたこの国際会議に 2000 年 6 月 21 日から 24 日まで参加しました。Tegernsee はミュンヘンから南へ数十キロ行ったところにあるリゾート地で、大きな湖のほとりにあります。この会議の会場は、マックス・プランク研究所所有のリンダーバーグ城という国際会議専用のお城でした。開催期間は 4 日間と比較的短く、参加者も 50 名ほどと小規模でしたが、城が交通の悪い丘の上にあったため、参加者のほとんどが城の中に泊まり込んでいました。そのため、夕食後も様々な話題について議論することができ、非常に有意義な時間を過ごす事が出来ました。

この会議の目的は、星の形成過程に関する最近の研究成果や今後の研究の方向性などについて活発な議論を行うことでした。会議では特に、低質量星の形成過程、星周円盤の進化および惑星形成過程についての話題が活発に議論されました。会議の前半は、主に星形成関係の講演が続き、後半は惑星系形成の話題が中止に議論されました。私は前半のセッションで「Formation and Evolution of Infalling Disklike Envelopes around Protostars」という題名で 20 分の口頭発表をしました。最近の観測から、形成途中の若い星の周りには、中心星に向かって動的に収縮を続ける、星周ガス円盤が存在することが明らかになってきましたが、本講演では、その形成過程を数値シミュレーションにより調べた結果について話しました（今回初めてパワーポイントを使って講演しました。講演で動画を見せることも初めてでしたが、結構楽しく講演で



リンダーバーグ城

きました)。

この会議では、星形成および惑星系形成に関する様々なトピックスについて活発な議論がなされました。星間雲で観測される星間乱流の数値シミュレーション、連星系形成の研究、星なしコアのダスト連続放射による観測、星周ディスクの観測、ダスト集積や重力不安定による惑星系形成の研究などバラエティーに富んだ講演が目を引きました。ダスト放射による星なしコア観測や系外惑星の観測など、しばらく前に盛んに研究されるようになってきた観測データが、統計的に扱えるほどサンプルが増えてきたことも印象的でした。

本会議に参加させていただき、多くの研究者と有意義な議論ができました。大変貴重な経験であったと思います。最後になりましたが、渡航費の援助をしていただきました日本天文学会早川幸男基金に深く感謝いたします。どうもありがとうございました。

中村文隆 (新潟大学教育人間科学部)